

## 高品質で安全・安心な米づくりは、土づくりと健苗育成から！！

高品質で美味しいお米の生産は、田植前から始まっています。土づくりの継続と健苗育成により、今年の稲作に向けて好スタートを切りましょう。

### ケイ酸質資材の施用

～継続して施用しましょう～

営農記録ノート P16 参照

○昨年秋にケイ酸質資材を散布できなかったほ場では、必ず春に施用しましょう。

※ケイ酸には、割粃（カメムシ被害）や倒伏を軽減する効果があります。

○ごま葉枯病が見られた水田には、鉄を含む土づくり資材を散布しましょう。

#### ケイ酸質資材の施用量の目安

資材名	施用量(10a 当り)
① 有機加里入りシリカロマン2号	80 kg以上
② 鉄田満太郎	100 kg以上
③ シリカロマン	80 kg以上
④ 砂状ケイカル	200 kg



【ごま葉枯病】

③、④の資材はカリを含まないため6月中下旬に「エスアイ加里らくだ」または「エスアイ加里カリ投げくん」を施用しましょう。

### 有機物の施用

～堆肥散布で地力を高めよう～

○腐植含量が少なく地力の低いほ場は、堆肥を施用しましょう。

注）春に発酵鶏ふんを施用したほ場では基肥をチッソ成分で1～2kg/10a 減肥しましょう。

#### 有機物の施用量の目安

堆肥の種類	施用量
発酵鶏ふん	75～100 kg/10a

### 深耕の実施

～春は深耕して作土深の拡大を図ろう～

○春耕時はトラクタの速度を落とし、作土深 15 cm以上を確保しましょう。

### 春作業に向けての安全対策

営農記録ノート P20 参照

○ハウスのビニール張りやトラクタ作業などで事故が発生しています。

事前に危険な作業を見直し、事故防止対策を徹底しましょう。

#### ※農業機械の点検と整備

- ・早めにトラクタ、田植機の点検を行いましょう。
- ・点検作業を行う場合は、必ずエンジンを切りましょう。
- ・事故を未然に防ぐため、作業開始前に故障箇所がないか確認しましょう。

令和7年 実施期間 3月1日～5月31日

### 春の農作業安全運動

あなたも農作業中に「ヒヤリ」とした経験はないですか？  
農作業事故ゼロを目指して事故防止対策を徹底しましょう。

#### 農作業事故防止対策

- ① 農業機械の転倒・転落や、用水路の転落を防ぐために、農場や農道などの危険箇所を事前に確認し、改善に努める。  
 草で路肩、進入路 幅員狭小 路肩が軟弱 → 確認 → 改善 → 草刈り・補修 目印設置
- ② 余裕をもった作業計画を立て、複数人での作業を心がける。
- ③ 各作業に応じた服装、保護具（ヘルメット等）を着用する。
- ④ トラクターの乗車時にはシートベルトを使用する。
- ⑤ 機械等の使用前には点検整備を徹底する。
- ⑥ 作業前に機械の正しい使用方法や農場の危険箇所などを作業員全員に周知する。

富山県

ウラに続く

# 健苗育成のポイント

営農記録ノート P18~P19 参照

- ◎ 令和6年産種子は登熟期間が高温で推移したことから、**浸種積算温度120℃程度**となるよう確実に浸種しましょう。
- ◎ **浸種初日水温は12.5℃**とし、富富富は1~2日程度長く浸種しましょう。
- ① 高温登熟を回避するため、「**コシヒカリ**」は**5月15日を中心に田植えを行い**、育苗日数（播種日~田植日）を19日以内となるよう育苗計画を立てましょう。
- ② 育苗期間中は、ハウス内が高温にならないよう**換気を徹底**しましょう。特に、4月下旬以降は、搬出直後から積極的に換気しましょう。

## 育苗作業の目安

~田植日に合わせて育苗計画を立てましょう~

品種	田植予定	浸種	催芽	播種	搬出
てんたかく てんこもり	5月5日	3月30日	4月12日	4月13日	4月16日
コシヒカリ	5月15日	4月15日	4月25日	4月26日	4月29日
富富富		4月13~14日			

## 種子消毒

○消毒開始時は適水温（12.5℃）で浸種を行い、その後は2~3日間は水の入れ替えを行わず、種子消毒の効果を高めましょう。

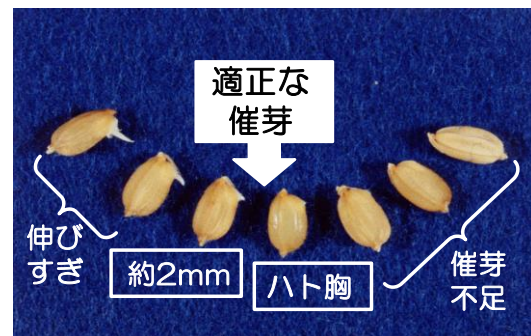
## 浸種

~しっかり浸種して催芽を揃えましょう~

- 浸種積算温度（水温（10~15℃）×日数）の目安は消毒期間を含め120℃日程度としましょう。
- 浸種水量は種籾10kgに対して、水30~40ℓとし、種籾が十分つかる程度にしましょう。その後は2日に1回は水を交換しましょう。

## 催芽

バラつきが多い場合は、  
催芽時間を延長する



○催芽温度は30℃で、芽の長さはハト胸から**2mm程度**に揃えましょう。催芽時間の目安は18時間程度です。

## 播種・出芽

- 播種量は箱当たり乾籾120g（催芽籾150g）です。（消毒済み種子1袋で33箱程度）
- 育苗器の温度は**30℃を厳守**（30℃を超えると病気が発生しやすくなります）し、日数は2.5~3日間を目安に、芽の長さ**1cmを確認してから搬出**してください。

バラつきが多い場合は、**搬出を遅らせる**

## 搬出~緑化期（1葉期）

- 搬出後のかん水は、晴天の場合は十分に、曇雨天の場合は覆土を落ち着かせる程度にしましょう。
- 寒冷紗等の被覆資材で遮光し、白化を防止しましょう。被覆資材は緑化後（3日以内）にはずしましょう。

### 温度管理の目安

苗のステージ		緑化期	硬化期
育苗日数		2~3日	13~15日
温度	昼	25℃以下	
	夜	10℃以上	

積極的  
換気

## 硬化期

- かん水は、原則として早朝にたっぷりかけましょう（床土が乾くようなら日中にも追加かん水しましょう）。
- 田植えの7日前頃から昼夜ともに換気し、十分外気に慣らしましょう。

○ご不明な点はJA高岡 担当営農指導員 または 高岡農林振興センター 高岡班(26-8477) までお尋ねください。